

新城設楽地区「拡大家庭教育推進協議会」 地域で子どもを育むための交流会

I 概要

- 1 日時 令和5年11月9日（木）午後1時30分～午後4時
- 2 会場 とよね文化広場村民ホール
- 3 参加者 ・協議会委員 12名
・協議会以外の参加者9名
（家庭教育・子育て支援者3名、行政関係者 2名、学校関係者2名、PTA等保護者1名、社会教育委員1名）合計21名

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時30分～午後1時45分
優良家庭教育推進組織等顕彰



【顕彰式】

優良家庭教育推進等組織
「豊根村地域学校協働本部」

地域未来塾の運営や地域の職業紹介、保護者や地域の方との軟式野球大会など、地域総ぐるみで村の子どもたちの豊かな心を育てている。また、その活動は保護者を支える取組になっている。

- 2 実践活動発表 午後1時45分～午後2時20分



【実践活動発表】



【質問をする参加者】

「豊かに根ざす村！地域・家庭・学校をつなごう」と題し、豊根村地域学校協働本部の取組について発表していただいた。「豊かに根ざす村とともに本気になって取り組む生徒」を育てるための様々な活動が紹介された。オンライン寺子屋についてなど、参加者から多くの質問があり、関心をもって発表を聞いていただいたことが分かった。地域で子どもを育てていくことの高さを実感する内容であった。

4 グループ協議、情報交換会 午後2時30分～午後3時45分

<テーマ>

これからの家庭教育で私たちができること

＝グループワークで出た意見＝

グループA

仕事や家事が忙しく、母親が手一杯だと、子育てを楽しむ余裕がなく、家庭にこもりがちになる。情報があっても自分で動けず、自分が困っていることも分からない。相談しやすい関係づくりをしていくことが大事。子どもが自分の好きなことができる場所、安心できる場をつくることで、親も安定するのではないか。

グループB

少子高齢化によって伝統行事が減って、地域や人との関わりが少なくなっているが、お祭りなど小さい単位のネットワークは存続させていくのが大事。豊根村の取組のように地域を離れていく次の世代にも地元の仕事やふるさとに意識を向ける働きかけが大切だと思った。



【グループワークの様子】



【グループワークの報告】

グループC

子どもが習い事などで忙しく、下校後に友達と遊ぶ時間が減っていたり、家庭で経験することが少なくなったりすることで、コミュニケーションが消極的になりがち。身近な大人や地域での交流が増えれば、コミュニケーション能力も自然と高まるのではないか。

グループD

親も子もスマホを見ている時間が長い。人とのコミュニケーションは、スマホやゲームでは学べない。顔を突き合わせて話す場が必要。しつけや家庭教育の方針も多様化している。それぞれの価値観を認め合いながら、感性豊かな子どもを育てていきたい。

5 指導講評 午後3時45分～午後4時

6 閉会行事 午後4時

Ⅲ 課題や今後の取組について

「地域で子どもを育てることの大切さを実感した」「大人が助け合って地域を盛り上げることで、家庭教育を底上げするという言葉が心に残った」「共感できることがたくさんあり、改めて大切にしたいことを再確認できた」などの感想があった。今後もそれぞれの立場でできることを考え、今日の学びを多くの人に伝えていただくようお願いした。今後もより多くの保護者に参加してもらえるような体制をつくり、地域、保護者、学校が家庭教育について情報共有し、一丸となって取り組めるようにしていきたい。